

? 調査概要

調査目的：医師のブランド想起を元に、各プロモーションの有効性を定点的にトラッキング
 調査方法：インターネット調査
 調査対象：全国の臨床医

有効回答：約10,000s
 調査期間：年4回（1・4・7・10月）
 調査主体：株式会社インテージヘルスケア

製品想起ランキング

※医師が製品5つを想起し、各製品の印象を評価。
 下記ランキングは印象が「ニュートラル以上(ポジティブ)」のみを分析対象とする。
 ※下記結果は診療科問わずTOTALで算出（診療科等による絞込みも可）

SOC
SHARE OF CHANNELS

※MRIは
 「MRディテール+MRオンライン面談+MR院内説明会」の合計

参考データ

IMPACT
TRACK2025年1月
TOTAL想起数2025年1月
MR想起数2025年1月
ノンプロ想起数2024年10月-12月
MRDTL数

New

New

1 エンレスト

2 フォシーガ

3 マンジャロ

4 ジャディアンズ

5 デエビゴ

6 タケキャブ

7 アミティーザ

8 ソフルーザ

9 タリージェ

10 グーフイス

1 エンレスト

2 ジャディアンズ

3 マンジャロ

4 フォシーガ

5 クービビック

6 ソフルーザ

7 アレジオン

8 レキサルティ

9 ソコーバ

10 リベルサス

1 エンレスト

2 タケキャブ

3 フォシーガ

4 デエビゴ

5 マンジャロ

6 ジャディアンズ

7 タリージェ

8 カロナール

9 ソフルーザ

10 アミティーザ

1 フォシーガ

2 エンレスト

3 ジャディアンズ

4 マンジャロ

5 グーフイス

6 タケキャブ

7 リベルサス

8 デエビゴ

9 パルモディア

10 アミティーザ

SOC2025年1月 TOTAL想起数No.1はエンレスト

全チャネル総合で最も想起された薬剤はエンレストであった。エンレストはMR想起数・ノンプロモーション想起数ランキングにおいても1位を獲得し、2021年10月以降連続してTOTAL想起数No.1を維持している。

インフルエンザの流行に伴い、ソフルーザがTOTAL想起数ランキングで8位となり、MR想起数・ノンプロモーション想起数ランキングにおいてもトップ10入りした。

MR想起数ランキングで5位を獲得した新薬のクービビックは、インターネット想起数ランキングでも8位となり、プロモーションチャネルにおいて想起数を伸ばしている。

本調査結果に関するお問い合わせは弊社担当者または[お問い合わせフォーム](#)へご連絡ください

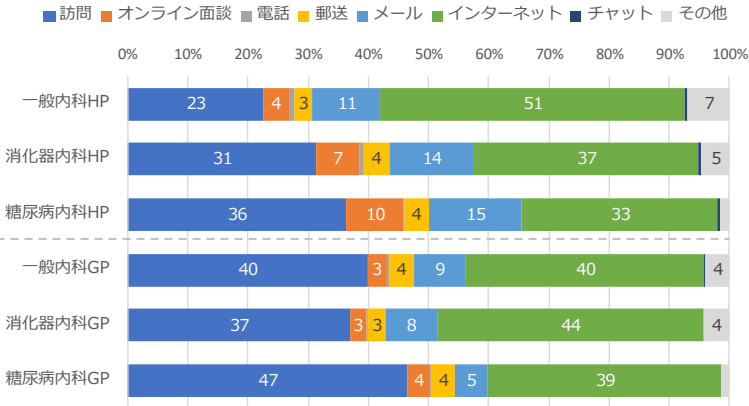
*記事本文並びにデータを無断で転載されないようお願い申し上げます

2025年1月度SOC調査では、製薬会社からの情報提供について「Q1.医師が求める情報の種類と提供手段」「Q2.メーカー全体としての情報提供活動の評価」を追加設問として聴取いたしましたので、一部サマリーをご報告させていただきます。

情報の種類ごとに、医師が求める提供手段を把握

Q1. MRに限らず製薬メーカーから得られる情報について、情報の種類ごとに、先生が望ましいと思う情報提供の手段をお知らせください。
(回答は情報の種類ごとにいくつでも)

新薬に関する情報の望ましい提供手段 構成比 2025年1月



(HP：100床以上／GP：99床以下)

情報の種類 / 情報提供の手段は以下の項目にて聴取

情報の種類	情報提供の手段
・新薬に関する情報提供	・ 訪問
・既存薬に関する情報提供	・ オンライン面談
・開発品に関する情報提供	・ 電話
・副作用の情報提供	・ 郵送
・供給情報	・ メール（双方向）
・講演会の案内	・ メール（一方的）
・問い合わせ対応	・ インターネット（テキスト/画像）
・学会情報	・ インターネット（動画）
・疾患に関する情報提供	・ チャット
・最新の手技について	・ その他

情報提供活動の総合評価をメーカー別に把握

Q2.手段を問わず、情報提供活動を総合的に評価できるメーカーをお知らせください。（指定50社から最大10社を選択）

情報提供活動における総合評価No.1メーカー（主診療科/HPGP別）2025年1月

(HP：100床以上／GP：99床以下)

主診療科	HP	GP	主診療科	HP	GP	主診療科	HP	GP
一般内科	第一三共	第一三共	一般外科	武田薬品	第一三共	泌尿器科	アステラス製薬	アステラス製薬
循環器内科	第一三共	第一三共	心臓血管外科	大塚製薬	第一三共	耳鼻咽喉科	サノフィ	杏林製薬
消化器内科	武田薬品	武田薬品	消化器外科	大鵬薬品	杏林製薬	精神科	大塚製薬	大塚製薬
呼吸器内科	アストラゼナカ	グラクソ・スミスクライン	呼吸器外科	アストラゼナカ	アストラゼナカ	眼科	参天製薬	参天製薬
血液内科	中外製薬	旭化成ファーマ	整形外科	旭化成ファーマ	第一三共	小児科	武田薬品	MSD
糖尿病内科	リリー	ノボルディスクファーマ	脳神経外科	第一三共	第一三共	放射線科	バイエル薬品	バイエル薬品
リウマチ科	旭化成ファーマ	旭化成ファーマ	乳腺外科	リリー	アストラゼナカ	麻酔科	MSD	第一三共
腎臓内科	協和キリン	協和キリン	産婦人科	MSD	MSD	救急科	旭化成ファーマ	ファイザー
神経内科	エーザイ	第一三共	皮膚科	マルホ	マルホ			

青字：前回調査からNo.1メーカーが入れ替わった

* 評価をした理由は聴取しておりませんが、弊社シンジケートデータ(SOC/ImpactTrack/Rep-i)と組み合わせで分析が可能です

新薬に関する情報の望ましい提供手段として回答された割合を一般内科HP/GP、消化器内科HP/GP、糖尿病内科HP/GPで比較すると、いずれの診療科も「訪問」を望ましいとする割合はGPの方が高く、「オンライン面談」や「メール(双方向/一方的)」を望ましいとする割合はHPの方が高めの傾向がみられた。「インターネット(テキスト/画像/動画)」を望ましいとする割合は診療科により傾向が異なり、一般内科ではHP、消化器内科・糖尿病内科ではGPの方が高かった。糖尿病内科はHP/GPともに一般内科・消化器内科よりも「訪問」を望ましいとする割合が高めで「インターネット(テキスト/画像/動画)」を望ましいとする割合は低めの傾向が見られた。

情報提供活動における総合評価No.1メーカーを主診療科ごとにHP/GP別で確認すると、前回の2024年10月度調査からNo.1メーカーが入れ替わったのは、血液内科GP、一般外科HP/GP、消化器外科GP、整形外科GP、脳神経外科GP、乳腺外科GP、小児科HPであった。

* 本追加設問にご興味があれば、以下アドレスもしくは担当者へご連絡ください

本調査結果に関するお問い合わせは弊社担当者またはお問い合わせフォームへご連絡ください

* 記事本文・データ転載をご希望の際は、上記メールアドレスにご連絡ください